

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域社会の中で、その人らしく暮らすことを支える」内容の理念を掲げて、ホーム内に掲示し、地域内で交流を持つことを実践している。	毎日の朝礼や全体ミーティング等でケアを振り返り、理念の共有と実践に努めている。来訪者にも分かりやすいようにホームの方針を玄関に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃、防災訓練、行事に積極的に参加したり、地区の子供会や小学校と定期的に交流会を行っている。	地域を生活圏とし、地域の一員として暮していけるようにすることを運営方針で謳い、積極的に地域との関わりに取り組んでいる。育成会で栽培した枝豆を持って子供達が来訪し、入居者と一緒に料理し食べ、スイカ割りなども楽しんでいる。小学生の訪問が年4回あり、入居者とのゲームやおしゃべりを楽しんでいる。おはぎや焼き芋を作った時には近所にもお裾分けしている。福祉関係の学生の実習を受け入れたり、地域交流会では地域のボランティアとふれあうなど、ホームの中でも外出先でも地域との交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を地域に配布し理解を求めているが、充分には行えていない。日常的活動を地域の中で行うことで、理解を求める努力は行えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を開催しホームの実情を理解していただき、活発に出される意見で学ぶことが多く、協力体制を求めることが出来ている。	2ヶ月毎に入居者、家族、区長、民生委員、市職員等が参加し開催されている。会議ではホームの利用状況や活動を報告し、参加メンバーと意見交換が行われている。防災訓練を行う時には消防署員も出席し助言を頂いている。出された意見や要望は職員に報告し、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、ホームの取り組み等報告できている。市町村の立場から意見も聞かせていただいている。	地域包括支援センター職員に入居者の暮らしぶりを報告し、相談をかけることがある。市の担当者からは感染症等の連絡を頂いたり資料を送ってもらうこともある。介護認定更新手続きの代行や介護認定調査の訪問時には担当者に入居者の様子や暮らしぶりを伝えている。警察官が「大丈夫ですか」、「何かありますか」と巡回にも見えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間は防犯上、玄関の施錠は行っているが他身体拘束は行っていない。身体拘束についての理解も出来ている。	身体拘束の具体的な内容や入居者の行動を制限する行為を職員は認識している。他施設での虐待や拘束などが報道された時には適宜話し合い、拘束しないということを職員同士で確認し合っている。勉強会や定例会議でも拘束や虐待について話し合う機会があり、入居者が自由に安心して暮せるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングで意識の共有を図っている。事業所では虐待行為は見られない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ミーティングで学習し共有を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	落ち着いた雰囲気の中で十分な時間をとり、説明し疑問に答えている。契約後も意見や質問を受ける姿勢を作り、不安のないように配慮している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員の方々と直接話ができる場を設けている。意見箱を作ったり、面会時などに職員にも意見をいただきやすい関係作りを行い、実際にいただいた意見は反映できるような体制ができている。	入居者の多くは自分の思いや希望を伝えており、得られた要望等はサービスの向上に活かしている。第三者委員会があり家族と直接話せる機会を設け意見が言い易い環境を設けている。職員は家族が訪れた際に話を聞くように心がけている。出された意見・要望は運営に反映させている。意見箱も置かれているが殆ど活用されることはなく、直接職員に伝えられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や月1回の全体ミーティングでは活発な話し合いがなされ、運営に生かされている。	毎月の会議では様々な課題が話し合われ、職員は積極的に自分の思いや考えを伝えている。話しやすい雰囲気での会議であり、他の職員の考えを聞き、教えられることもあるという。管理者は年3回職員と個別面接を行い、業務上の振り返りをしたり個人的な相談も受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修は実施され、参加機会も多く与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との交流の機会は多くあり、いい刺激になっている。法人外での同業者との交流の機会を増やしたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とコミュニケーションを多くとり、話をする中で不安をなくし安心していただくように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が納得し安心していただけるよう必要に応じて何回か話し合いの機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中で何を必要としているかを、知り対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を利用者主体とし、相談しながら活動している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の情報を定期的に送付し、共有する中で、協力しともに支えることを常にお願している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別外出においてなじみの場所や自宅訪問を行ったり、友人・知人が訪問しやすい環境を作っている。電話での交流も行えている。	友人や知人、近所の方等、来訪者が多く、電話でのやり取りもある。送られてきた誕生カードは本人の了解を得て披露し、ホーム一同感動し涙を流したという。入居までの生活や地域内での関りの様子などを家族等から聞き取りしてあり、入居者一人ひとりが本人らしく生き生きと暮し続けられるために活用している。在宅生活と変わらないように買い物、理美容院、外食、散歩など入居者の様子を見ながら積極的に機会を設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係作りは出来つつあり励みになっている。孤立気味なときは職員が入り、安心できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡による解除のみである。関係を保てるように努めていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、本人の意向等把握している。また普段の生活の様子や会話から、本人の希望、思いを汲み取り職員で情報を共有し、ケアにつなげている。	意思表示が困難な方は現在のところいない。お風呂や車でつづやいたことなどに耳を傾け、日常の会話や様子から入居者の意向や希望の把握に努めている。入居者から今年の抱負として聞いた言葉を「なでしこ便り」に載せるなど、一人ひとりの意向に沿ったケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	書式を使い生活暦等の把握を行い、家族からも様々な情報を得られるよう関係を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	書式を記入することで、把握することに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、担当者・ケアマネ中心に作成し、職員会議で皆の意見を求め反映している。	本人、家族から生活に関する意向を確認し、本人の状況に合わせた介護計画が作成されている。介護計画作成に当たっては職員からの情報・意見も吸い上げ完成させている。実施状況を定期的に確認し、必要に応じ介護計画を新たなものに作り変えている。特に大きな変化や問題がない場合は概ね3ヶ月もしくは6ヶ月で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、日々の様子やプランの実施状況についてかかれ、職員間の情報の共有、ケアの実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の記録やミーティングにおいてニーズの変化の把握を行い、対策やサービスの変更も柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム内だけの生活にならないように、スーパー、美容院など地域資源の活用を行っている。また散歩を通じ近隣の方とふれあいをいもてるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望で行っている。医院とも連絡が取れる体制が取れていて、相談でき安心できている。	かかりつけ医は入居前の馴染みの医師となっている。協力医療機関の医師が毎月一回診療に訪れている。また、入居者の緊急時には協力医療機関と連絡を取り、必要な治療が受けられるよう支援している。協力歯科医師には必要時に受診や相談をしている。かかりつけ医への受診の付き添いは基本的には家族にお願いしている。本人に状態変化があれば医療機関宛に連絡票を作成し家族に託している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームには看護師はいないが、法人の看護師に相談できている。協力医院の看護師とも連携できる体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院のケースが生じた場合は、職員が病院へ行き、看護師や医師から情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化について、家族の意向を聞いているが、マニュアル化していない。	入居者の状態変化が生じた時には家族は医師や職員等と話し合いを繰り返しながら方針を決めている。状態により施設に移られた方や終末期をホームで過ごし医療機関に移り最期を迎えたケースはある。ホームとしては本人、家族が終末期を不安なく安心して過ごすことができるよう医療機関や施設との連携強化に努めている。今後は更に終末期に向けた指針を作成し、家族のように一緒に暮してきた入居者を最期まで支援していきたいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習には全員参加できている。繰り返し訓練を行っていくことで、身に付けていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の訓練に参加したり、事業所の訓練に区長さんに参加してもらい、協力体制が必要なことは確認できている。2か月に1回の事業所訓練では、各種想定の中で行っている。	年一回、消防署の指導の下、夜間を想定した訓練を地域の方にも参加していただき実施している。また、ホーム独自で昼間想定訓練を2ヶ月毎、様々な場面を想定(通報・避難・誘導・消火器具の使い方等)行っている。備蓄は法人でも準備してあるが、ホームでも2~3日分の備えはある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は、常に意識し、日々の関わりを振り返り、尊厳を大切にしよう心がけている。	入居者は名前や苗字に「さん」をつけて呼ばれており、本人の希望する呼び方に決まっている。職員は一人ひとりを人生の先輩として尊敬し、常に入居者の気持ちになって考え行動することを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を伺うことを多く持つことを心がけている。が言葉に表せない方については誘導してしまうことがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課等はなく、利用者のペースで柔軟に生活していただけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧、スカーフ、外出着等その人らしく楽しんでいただけるように支援できている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立、食材選び、調理、片つけと一連を通して一緒にいき楽しんでいただいている。	献立はその日にある食材を使ったり、時には入居者と相談しながら作っている。女性6名が交替で参加し、下ごしらえ、味付け、配膳、片づけ等、職員と一緒に楽しんで行っている。近所の方や家族から野菜の差し入れが届いている。キッチンがオール電化である。おせち作りなど来客がある時の献立は必ず入居者に相談し知恵を借りている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の把握は出来ており、体調管理につながっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについては、必要に応じて介助、声がけで行えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンをつかみ、トイレでの排泄につなげている。失敗しても、本人が傷つかないように、周囲に気づかれないような対応を行っている。	昼夜を問わずトイレでの排泄支援が行われている。排泄パターンを知り、昼間は紙パンツや布パンツで過ごしている。多くの入居者が概ね自立している。見守りや誘導が必要な入居者にはそっと近づき支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水、食事内容のバランス、毎日の体操で予防に取り組んでいる。必要に応じ腹部のマッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日はおおよそ決めてあるが、本人の希望により変更できる状態である。入浴時間は体調を見ながら本人の希望に沿っている。ゆっくり入っていただけるようにしている。	希望があれば毎日でも入ることが可能である。本人の希望に沿いながら1日に平均2名の方が入浴している。入浴を勧め、「後で」と拒んだ方も湯ぶねに浸れば「気持ちがいい」と喜んで入っているという。柚子湯や菖蒲湯など変わり湯も楽しんでもらっている。風呂場は洗い場が広く、介助し易い造りとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めず、寝たいときに寝ていただいている。休みたいときは寝ていただいているが、メリハリのある生活が送れるように配慮している。寝具の清潔にも考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬簿により個々の服薬について理解できている。投薬については安全が図れる手順が考えられている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人に役割を持っていただき、生きがいにつながる様に支援している。本人の希望、生活歴、家族の情報などから楽しみや満足感が得られるプランを立て実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	温泉、バスツアー、墓参り、喫茶店、自宅等本人の希望に沿った支援を行い、楽しんでいただいている。	ホームではお花見、紅葉狩りなどに出掛けている。本人の希望で墓参りや自宅に行く方や喫茶店・足湯に出かける方もいる。お天気の良い日には杖やシルバーカーを押しながらホーム周辺に出掛けたり、職員と買い物に出掛けたりと日常的に外出支援が行われている。足湯に行った時の写真を見て「あれは大根か」と真面目に聞く言葉に大笑いし、「笑うことは薬を2回飲むより効く」ということも入居者から教えていただいたという。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、お金を持ち買い物できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りや電話は希望により行えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔であるように努め、季節の花や、飾り物を置き、生活感を感じ、居心地のいい空間を作る努力をしている。	広い共有空間には天井に明かりとりがあり室内が明るい。トイレは広く、洗面所も整理されており入居者が使い易い。全体的に共有空間は広く、本があったり、蘭が置かれている。大きなテレビを楽しまれたりして入居者は居間で日中の殆どを過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間は1人になるスペースはないが、思い思いに過ごすことは出来、利用者同士で楽しめる場所は作られている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた筆筒や写真、飾り物など置かれ、家族と本人で相談し、居心地よく作られている。	居室の面積はそれぞれ違うが、全体的に大きめの居室である。ベットは持ち込みであるが、テレビや使い慣れた筆筒を持ち込まれている方もいる。お孫さんの写真が飾られていたり御主人の写真があり、本人にとって居心地の良い居室となるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線を考え、使いやすいように配置等考えてある。安全については、都度話し合い、確認している。		